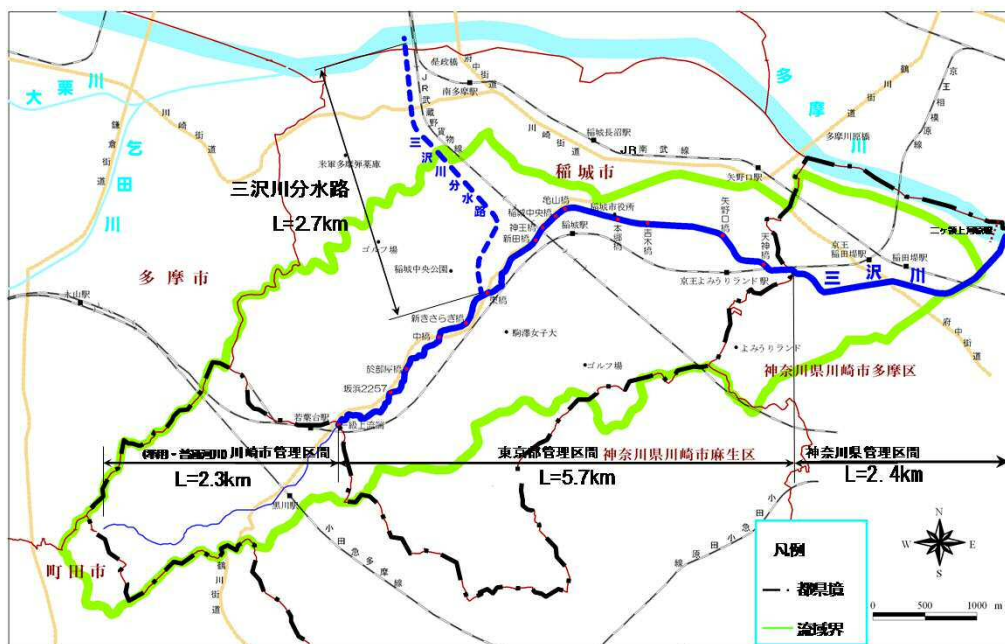


三沢川流域とは？

三沢川流域とは、三沢川とその派川である三沢川分水路に雨が流れ込む約17km²の範囲を言います。流域の河川は多摩ニュータウン地区や多摩丘陵の田園地帯を流れ、潤いと安らぎを与える貴重な水辺空間として地域の人々に親しまれています。

三沢川は、神奈川県川崎市麻生区に源を発し北東に流れた後、東京都稲城市に入り、丘陵部の谷底低地を鶴川街道沿いに流下し、流向を東に変え、再び川崎市に入り、多摩川に注ぐ延長約10.4kmの一級河川です。上流の川崎市麻生区を流れる区間は、川崎市が管理する準用・普通河川であり、東京都管理区間を挟んで下流側は神奈川県が管理しています。

三沢川分水路は、三沢川中流部で三沢川から分岐し、途中2箇所雨水幹線を併せ、JR南武線多摩川鉄橋の上流側で多摩川に注ぎ込む延長約2.7kmの一級河川です。



三沢川流域図

流域の特徴

三沢川流域では、過去に昭和33年9月の狩野川台風や昭和41年6月の台風4号の際など、台風や大雨の度に被害があった。その後、多摩ニュータウンの開発に伴う雨水排水の処理を行うために整備が行われました。



改修前の三沢川
(昭和48年)



三沢川分水路内部
(完成当時)

河川整備の目標

三沢川流域では、洪水に対する安全性を確保すると共に、生態系に配慮した川づくりや、水辺に親しめる川づくりを進めていきます。

計画対象区間と期間

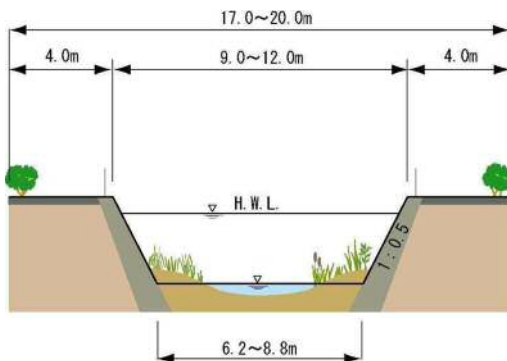
計画対象区間は、三沢川、三沢川分水路の法定河川のうち一級指定区間が対象です。なお、河川の整備から維持管理に関することも含まれます。

計画対象期間は、おおむね10～20年間としますが、河川をとりまく状況の変化や社会状況の変化に応じて見直しを行います。

河川の整備

治水・・・洪水による水害の防止又は軽減

1時間あたり50mmの降雨により発生する洪水を安全に流すことのできる河川の整備を進めます。三沢川流域では、引き続き必要な箇所の改修を行い、治水安全度の向上を図ります。



整備断面図 (新きさらぎ橋上流)



未改修区間の様子

※「中小河川における都の整備方針～今後の治水対策～」(平成24年11月)では、多摩部河川の目標整備水準を時間最大65ミリ降雨に引き上げることとしましたが、三沢川流域については、今後の整備の進捗や流域の自然・社会状況等の変化を踏まえ、必要に応じて見直しを行います。

環境

流域住民が憩いの水辺として親しむことができ、多種多様な動植物が生息・生育・繁殖できるような生き物と人が共生できる川づくりを行い、周辺の景観と調和した水と緑の季節感のある地域景観の形成に努めていきます。



水際の植生の整備イメージ



緩傾斜護岸の整備事例
(三沢川：稲城市矢野口)